

播磨プランニングラボ

都市計画研究室（太田ゼミ）

キーワード：計画演習，都市計画，都市公園，高砂市，自治体連携

1. プロジェクトの背景

都市計画研究室では3,4年生の後期に都市計画の演習を行っている。今年度は高砂市内の日常的な公園を対象にした。プロジェクトの開始にあたり2022年6月頃に今年度扱うテーマを検討した。「誰でも気軽に使える場所」「地域の特性が現れる場所」「地域の手で管理されている場所」を対象にしたいという意見のもと、具体的には、ゆうかり児童公園（街区公園）と栄町公園（開発に伴う公園）が対象地となった。

2. 対象地における課題の整理

私たちは計画演習の実施に当たり、公園周辺の特徴や現在抱えている課題について調査を行った。初めに2022年9月に高砂市都市政策課の職員の方々のご案内のもとまち歩きを実施した。まちの特徴や課題について説明を受け、何が課題となっているか、どんな印象を受けたかなどメモや写真を撮りながら歩いた。まち歩き終了後には高砂市役所にて振り返りを実施した。各自の感想や問題意識を共有し、今後の視点を話し合った。

次に、現状をより詳細に知るために文献調査やGIS分析を行い課題の整理を行った。GISで過去の土地利用を参照したところ、ゆうかり児童公園の周辺には以前より住宅地が広がっていることが分かった。ここから、ゆうかり児童公園は地域に根付いた公園であると推測した。反対に栄町公園は開発により整備された公園という事もあり、住民にまだ親しまれていないのではないかと考えた。

文献調査の結果、高砂市では身近な公園を老若男女が気軽に休める憩いの場として整備し、居住空間の向上を図っている事や、公園を通じた関係性作りを目指している事が分かった。その後、現場の声を知るために2022年11月から12月にかけて3つのヒアリング調査（11/28(月)高砂市都市政策課・道路公園課、11/30(水)及び12/1(木)各公園利用者、12/2(金)栄町公園管理者）を行った。

3. 将来像達成に向けた提案

それぞれの公園の現在の使用状況と今後予想される人流を考慮し、各公園において「20年後の公園の姿」として図1の様な公園レイアウトを提案した。私たちが訪れたいと思えるような公園を軸に、今後の人口動態や求められるニーズに基づいてコンセプトを設定し設備を配置した。コストの概算結果について図2の通りである。



図1 ゆうかり児童公園（上）/栄町公園（下）案

（出所）学生作成

ゆうかり児童公園	栄町公園
【撤去】 ・公園遊具の撤去費用 150,000 円/個 150,000円×4=600,000円	【撤去】 ・公園遊具の撤去費用 150,000 円/個 150,000円×3=450,000円
【新設】 ・インクルーシブ遊具 3,640,000 円 ・S字型ベンチ 33,000×4×3=396,000 円 ・丘の上のベンチ 33,000×2×2=132,000 円 ・多目的トイレ 4,100,000 円 ・屋根 348,000 円	【新設】 ・人工芝 5,000 円/㎡ 5×15=75 ㎡ 75 ㎡×5,000 円=375,000 円 ・ベンチ 100,000円×2=200,000円 ・円形ベンチ 990,000円 ・パラソル 160,000円
合計 9,216,000円	合計 2,175,000円
□総合計 11,391,000円 ※当初予算額 24,940,000円 (令和4年度高砂市主要事業説明書より引用)	

図2 各公園の整備にかかるコストの概算

（出所）学生作成

また、市民参加型の公園の管理運営方法を2つ提案する。1つ目はPARKFUL Watchの改善である。現在高砂市において導入されているPARKFUL Watchとは株式会社パークフルの提供するツールであり、日常的な維持管理を行う担い手(自治会・愛護会・事業者)が自治体へ公園状況を簡単に共有することができる。これを市民も担い手として利用できるようにし、アプリを通じて公園清掃の成果を管理者に報告できるようにする。そして公園清掃を行った市民にインセンティブを与えることで自発的に公園に関わる人を増やすことができるのではないかと考える。具体的には、公園清掃の前後を写真にとって取り組みを管理者に報告し、その成果が認められた場合にポイントが溜まる仕組み。ゲーム感覚で楽しみながら行うことができるようにすることで、余暇の時間を公園清掃に充てる市民が増加するのではないかと考える。

2つ目は、子供と高齢者の交流を目的とした清掃活動の実施である。周辺にこども園や高齢者施設が立地しているものの、これらの交流が無いという課題から着想した。ゆうかり児童公園に隣接する高砂南高校の学生が、授業の一環若しくはボランティアとして、清掃活動と季節の行事を掛け合わせた子供と高齢者が共に参加できるイベントを企画するといったものである。幼い頃から日常的に公園に関わることで公園に対する愛着を形成し、長く公園に寄与してもらえ、人材を育成することを目的としている。

そしてこれらの提案内容が実現した場合に考えられる公園周辺の人の流れは図3の通りである。

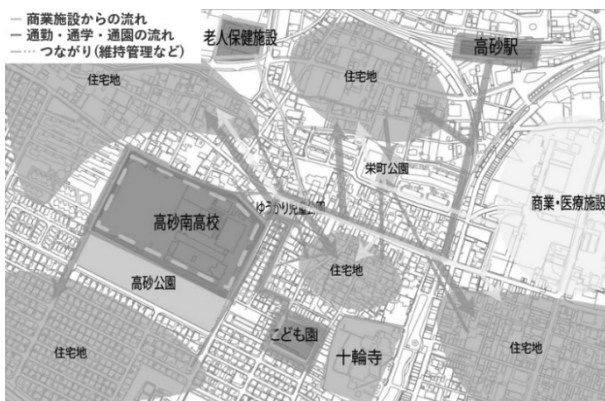


図3 将来的な公園周辺のつながり
(出所) 学生作成

ゆうかり児童公園では高校、こども園、老人施設を交えた維持管理などを実施することで様々な世代が携わるきっかけを作り、寄与し、栄町公園では利用頻度が低いという現状の課題を打破することができるかと推測する。このように、公園を中心に線の交差が発生し自然と交流が増加する事が期待される。

4. 成果と今後の課題

2023年2月1日に高砂市役所で私たちが考えたゆうかり児童公園・栄町公園の計画に関する最終発表会が行われた。最終発表会には高砂市都市創造部長様、都市住宅室都市政策課、土木建設室道路公園課、環境経済室環境政策課の職員の皆様にご参加いただいた。皆様から私たちの発表に対し、実際に公園に足を運び住民の声を聞いてよく調査できている、今回の提案で活用できるところも有りそうだという評価を頂くことが出来た。一方で、計画年次の妥当性や構成の一貫性の無さ、実現可能性の面での指摘を多くいただいた。また周辺の公園との関係性についての調査をするべきではないかというご意見を頂いた。私たちとしても多く課題の残ったプロジェクトだと考えている。計画演習をするプロジェクトとして始まったものの最終的には事業の提案という形に終わってしまい、当初の方向性から離れてしまった。これは計画するという事への理解が不足していたことが原因だと考える。またチーム内でのコミュニケーションやスケジュールリングの面にも問題があった。来年度以降はプロジェクトを始めるにあたって、計画とは何か十分に学習をし、多面的に調査を進めることを心掛けたい。そしてチーム内で十分に連携を取り、よりよいプロジェクト運営を目指していこうと思う。

5. 謝辞

当演習にあたり高砂市役所都市住宅室都市政策課、土木建設室道路公園課の職員の皆様、栄町公園管理者様にお世話になりました。また多くの公園利用者の皆様に公園へのご意見を伺いました。記して感謝申し上げます。

(文責：3年生 雫石千代乃)